

季節を知ったら 暮らしが楽しくなった

（第四四号）

芒種 ぼうしゅ

六月五日

心御柱を伐採する

先月五月の二日に執り行われた伊勢神宮の式年遷宮にちなむ最初のお祭り、山口祭。その日の夜、二番目のお祭りである木本祭が内宮と外宮でひっそりと執り行われました。ひっそりというのは、このお祭りは秘儀とされ、奉仕する神職以外は拝見することができないからです。木本祭は、ご神体を安置する正殿の床下に奉る「心御柱」の材を伐採するお祭りです。木の根元でお祭りを執り行うため、この名があります。

五月二日午後七時、内宮宇治橋前に集合し、特別許可が出た報道陣の一人として神域に入りました。昼間降っていた雨はすっかり上がり、夜の帳がおりた忌火屋殿前で待ちました。報道陣には、奉仕する神職たちを被い清める修祓のみ取材が許されています。明かりのない参道は暗く、ひっそりとしています。神嘗祭などで夜のお祭りは何度も経験していますが、松明がないため、一層暗いのです。午後八時、奉仕する神職たちが提灯に照らされて忌火屋殿前に参進してきました。神宮の神職のほかに、童男の「物忌」や青い装束の小工など十人程度です。暗がりではぼんやりとしか見えませんが、厳かに被い清めが行われた後、正宮へと向っていきました。その後、神路山で実際に心御柱の材を伐採し、木本でお祭りを執り行ったということでした。

この心御柱は、神職は「語るべからず」といわれるほどに神聖視されており、もちろん見ることはできません。遷御が近づくと、心御柱奉建という儀式で新宮の床下に新しく奉られます。

月や星が美しい夜、木本祭の秘儀が執り行われたのでした。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 梅雨のおかげ横丁

6月11日頃は「入梅」といわれ、シトシトと降る「走り梅雨」がやって来て、本格的な梅雨がやってきます。

古人は、梅雨の季節を粹に楽しく過ごせるよう、きれいに咲く紫陽花に心和ませたり、番傘の雨音に耳を傾けたりしていたようです。

雨が続く梅雨の季節におかげ横丁で、しっとりとした風情に包まれながら、心に残る素敵な思い出を作りませんか。

日 時／令和7年6月21日(土)～6月30日(月) 10:00～17:00

場 所／おかげ横丁一帯

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 『夏越の祓』を学ぶ

毎年6月30日、12月31日には、全国の神社で「大祓」という罪穢(つみけがれ)を祓い清める神事が斎行されます。特に6月の祓は古くから「夏越(なごし)の祓」ともいわれ、盛んに行われてきました。『拾遺和歌集』には、「水無月のなごしの祓する人はちとせの命のぶといふなり」との和歌が載せられています。

「夏越の祓」を目前に、お菓子「水無月」をいただきながら、大祓の歴史や神事の見どころ、関連する文化について図解や実演を交えながら学びます。

日 時／6月23日(月) 13:30～15:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／新田 恵三(皇學館大学文学部神道学科助教)

参加費／一般 2,000円 会員 1,500円(和菓子・抹茶付き)

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

枇
杷

枇杷の実が鮮やかに色をつける頃となりました。枇杷は果実の美味しさはもとより葉に薬効があり、古くから、病を癒すために用いられたと伝えられています。黄身餡を外郎生地で包み、甘く瑞々しい枇杷の実を表現しました。

なつ
夏

ごろも
衣

六月は衣替えの月。昔の人々もこの時季には、帷子(かたびら)という麻で織った薄い夏物へと衣替えをしていたといいます。薄紅と緑に染め分けた餡を、透明な葛生地で巻き、涼しく軽やかな夏衣の風情にみたましました。

よひら
四片の花

四片の花とは、あじさいの別称。

四枚の花びらがたくさん集まった姿から、その名が生まれたと言われます。

薄紫の錦玉を淡雪で寄せ、白餡を包みました。